

# ずし楽習塾 だより

2013.10

NO. 18

NPO法人ずし楽習塾推進の会

電話・Fax 046-871-7007

URL: <http://zushigakushu.jp/>

学びあい 教えあい ふれあい

生涯学習活動推進団体

## 人気講座「仏像鑑賞」の講師、岡本えい子さんに聴く

(仏像ブームを背景に講座「仏像鑑賞 基本の「き」の字」が人気です)

— 仏像（彫刻）は絵画などと同様に美術作品として観る者に感動を与えます。それだけではなく、古来祈りの対象としてやすらぎを与え、人々のこころのよりどころとなってきました。

未曾有の自然災害があったりして、こころのよりどころを求めている人が増えているように思います。

(昨年に続き、基本の「き」の字としたねらいは)

— 仏像鑑賞の初心者の方が少しでも仏のこころに近づけるようサポートしたいと思います。寺院や美術館にいらっしゃる仏に直面する時、事前勉強をしていくと対話ができ、自然に合掌する姿になるのではないのでしょうか。



(カンボジア、  
アンコールワ  
ットを訪ねた  
岡本さん)

昨年はサブタイトルを「形から知る仏像の世界」としました。仏像のかたち、「如来」「菩薩」「明王」「天部」について100枚を超える画像を観ながら勉強していただきました。

—今年のサブタイトルは「美しい仏像への旅」です。寺院の景色に溶け込んでいる美しい仏像を画像で訪ねます。

兵庫県の浄土寺にいらっしゃる阿弥陀三尊像（快慶作）を6月の夕方訪ねました。仏の背後から夕日がさし込みあたたかも極楽から来迎してきているようでした。



(浄土寺 阿弥陀三尊像)

寺院の景色、仏が拝観者を見守る景色、やすらぎを求め祈る景色、いずれも日常とは違う景色を観るために旅に出ます。

仲間と楽しく旅をするのも素晴らしいですが、仏の前で、ご自分と対話をなさるのも良いのではないかと思います。

## 人気講座「暮らしの中の写真術」紹介

今や生活の中にデジタルカメラ・スマートホン・携帯電話・ゲーム機と写真を撮る機材が増え、プリントをして楽しむだけではなく、メールに添付・Web 媒体で公開するなどビジュアルな世界が日々盛んになってきている。

しかし、思ったように写真が撮れない、もっときれいに撮りたいと思っている人が多いのも事実。

たまたま身近に文部大臣奨励賞を受賞され、フォトマスター検定エキスパート(総合)も取得された講師(牛尾さん)の存在を知り、是非とも講座を開設しようとの強い意見が出てきた。

こういった一般の悩んでいる方々へのヒントを与える事を目的とした講座であった。

### ① 1日目 写真を撮る基本一>

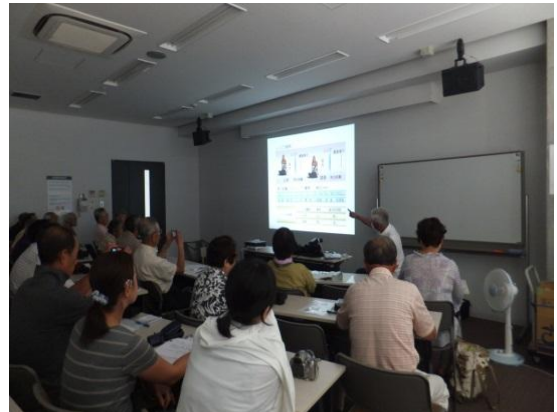
何をどう撮りたいか？まず考えよ！  
決して景色に撮らされることの無いように！！  
見る！（いきなりカメラを向けない）  
撮る！（心に触れたところ）  
診る！（撮った写真をチェックする）と  
言った点を繰り返し強調された。

② 2日目 カメラの基礎一> レンズ・絞り・シャッターのそれぞれの役割、設定の仕方によっていかに異なった映像になるかをサンプル写真にて丁寧に説明頂いた。

③ 3日目 作品講評一> 各人が撮った写真について 出来映え、狙い目、写し方などにつき種々コメント頂いた。更に講師が近郊で撮った写真を題材に画面の縦横配分、絞りの量、焦点の深さなどの工夫で如何に異なる写真になるかを教えられた。

④ アンケートの結果 役に立った、満足したとの回答多く、引き続き第2、第3の講座開設を希望する人が多かった。

ただいずれにしろ上達への道、ポイントは(見る・撮る・診る)をしっかり押さえて、一杯写真を撮って、どんどん消して行く事に尽きる(デジタルカメラ時代の上達法)との言葉が印象深かった。



### 『牛尾講師からの一言』

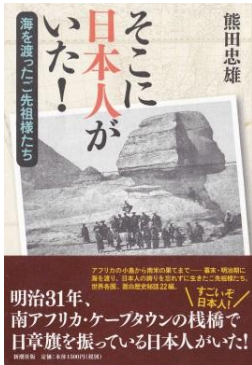
今や写真は写真愛好家だけのものでなく、暮らしの中のコミュニケーションツールであります。写真愛好家との違いは、写真に触れ感心を持つ過程に違いがあれ、写真を撮る目的に差はありません。その差は、機材や操作により撮った写真に差があることに関心を持って来たか来なかったのかの差だと思われれます。

したがって、写真について「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く」を心掛けた講座にしましたが、少しでもお役にたてたでしょうか。



## ポルトガル「ロカ岬」・・・この岬を見た最初の日本人は？

11月特別卓話「あんな時代、世界各地に渡っていた日本人」講師、熊田忠雄氏（新潮社刊：「海を渡ったご先祖様たち」著者）がつづる「サラリーマンリタイア—後、なぜこのような題材で本を書くようになったのか？そのきっかけは？」



九月半ば、スペインとポルトガルを旅してきた。両国へはこれまで何度か足を運んでいるが、まだ未訪問地も多く残っており、そこを少しでも埋めるべくコースを選んだ。

今回、改めて感慨深かったのは、ポルトガルの詩人カモンイスが「ここに陸尽き、海始まる」と詠んだユーラシア大陸最西端のロカ岬訪問である。というのもわたしが海外へ渡った初期の日本人に興味を抱くきっかけとなったのが、二〇〇一年に初めて訪れたこの岬だったからである。



あれは断崖絶壁の岬の広場から、ぼーっと大西洋を眺めていた時のことである。一五四三年、種子島に現れたポルトガル人も最初はこの海から船出し、アジアをめざしたはずだと思い、ならば逆に日本人で最初に眼前の海へ姿を現したのはいつ頃、どんな人物だったのかという疑問が頭をよぎった。

帰国して調べてみると、その日本人とは、あのイエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルの弟子のベルナルドという名もなきクリスチャン青年で、ポルトガル人の種子島到着から一〇年後であることがわかった



そうか！ここポルトガルに限らず、思いも寄らぬ時代に、思いも寄らぬ国や地域へ渡っていた日本人がほかにもまだいるはずだ。そんな日本人を探し出し、彼らの足跡を辿るのも面白いかも知れないと考えたのである。

以来、海外へ出掛けるたびに、現地に長く居住する在留邦人に話を聞いたり、帰国してからは国会図書館、外交史料館、各国の友好協会、古書街などへ通うのが習慣になった。ささやかでも新事実を発見した日は、金脈でも探り当てたような幸せな気分になり、独り祝杯を上げた。

一二年ぶりに岬を訪れた日、青空が広がっていたものの、強い風が吹き、海上には霧がかかっていた。一四〇メートル下の岩場に打ち付ける波の音をかすかに聞きながら四六〇年も前、極東の島国からはるばるここまでやって来た日本人と、その苦難の旅路を偲んだ。

(了)



## 絵画、ヨガ、料理、サーフィン・・・マルチ才能の秘密！

市民講師他でマルチ才能を発揮されてる石渡さんにその才能開花のコツを伺いました。



私は、けしてマルチでは無く、どちらかと言うと不器用だと思っています。

この質問に答えるとすれば、たとえば“何かに興味を持つこと”だと思います。

子どもの頃の芋ほり体験や家庭科学習のハウレンソウのバター炒めなど自分で体験すると、とても美味しく感じられます。

絵を描くことで、花や空、月や自然の風景など綺麗ななと思うだけで無く、よく観察するようになり、いつの間にか季節を感じ毎日が楽しくなります。

また絵を描くことで集中し、完成の達成感と満足感は、心を、より豊かにしてくれると感じています。

毎日を楽しく快適に過ごす為には、何を於いても健康でなければいけません。

それは心と体の両方の健康です。私がヨガをするのは、健康になる為の一つの方法として、とても効率よく画期的だと考えるからです。



興味をもつことで、集中し追及することで、楽しくなり、いつの間にか自分のライフスタイルになっているのだと思います。

私にとって、ヨガも絵も料理もサーフィンも、すべては毎日を楽しく過ごす為の方法でけてマルチなどでは無いと考えています。

一つ確信をもって言えることは、健康で、視野を広げて毎日をごしてれば、「私は、幸せです！」と、いつも感じられることです。



画家 ヨガインストラクター  
石渡 孝広

### NPO 法人ずし楽習塾推進の会

会員募集 随時会員を募集しています

2013年11月1日現在正会員：21名 賛助会員：4名

正会員年会費 1000円（一口以上任意） 賛助会員年会費 2000円（一口以上任意）

連絡先：〒249-0006 逗子市逗子4-2-1 市民交流センター（内） URL: <http://zushigakushu.jp/>

Tel & Fax : 046-871-7007 Mail: [z-gakushujuku@bz04.plala.or.jp](mailto:z-gakushujuku@bz04.plala.or.jp)